

AI for Good Global Summit 2019

参加報告

(アップデート版)

2019年12月

一般社団法人情報通信技術委員会 (TTC)

金子 麻衣

AI for Good Global Summitとは

AIのイノベーターと、課題を抱える公共・民間セクター等を結び付け
コラボレーションを通じたプロジェクトの生成を目的とする国連のプラットフォーム
サブテーマ : *Accelerating progress towards the SDGs*

開催期間	毎年 5 or 6 月の 3 ~ 4 日間
開催場所	ジュネーブ国際会議場 (CICG)
主催	ITU
協力	XPRIZE※1  Acm※2 
国連パートナー	WHO・UNICEF等37団体
概要	<ul style="list-style-type: none">国連の持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けたAIに関するグローバルで包括的な対話のための国連プラットフォーム4~5つのテーマ(Breakthrough Sessions)が同時進行で開催

※1 世界中のイノベーターを支援する非営利団体の財団、賞金レースを運営

※2 NYにあるコンピュータ科学分野の国際学会

AI for Good Global Summit 2019会場の様子

メインステージ



正面



会場内の様子



AI for Good Global Summit 2019

3年目を迎え、2019年はAIの実用化がテーマ

	2017年	2018年	2019年
目的	AIに関する包括的なグローバル対話	SDGSの達成を支援する AIのソリューション開発	SDGS達成を加速させる AIの実用化
主な成果	AIリポジトリの設定 FG-ML5Gの発足	35のプロジェクト提案 FG-AI4Hの発足	教育で2つのプロジェクト発足 今後その他プロジェクトが発足予定
テーマ Breakthrough Sessions	<ul style="list-style-type: none"> ① Privacy, Ethics & Societal Challenges ② Capacity Building & Poverty Reduction ③ Common Good & Sustainable Living ④ Investment, Economic Aspects & Designing the Future 	<ul style="list-style-type: none"> ① AI & Smart Cities and Smart Communities ② AI & Health ③ The Eye in the Sky: Space, AI & Satellite ④ Trusting AI – Will Mankind Master the Machine, or Vice Versa? 	<ul style="list-style-type: none"> ① AI and Health ② AI and Education ③ AI and Human Dignity and Equality ④ Scaling AI ⑤ AI for Space
講演者	70人以上	150人以上	370人以上
参加者	500人以上 Web5,000人以上	49カ国700人以上 Web参加人数不明	90カ国以上2,300名以上 Web6,000人以上
メディア	ジャーナリスト 45名 累計視聴者数1億人以上（多言語） SNS等 300万人以上	ジャーナリスト 40名以上 累計視聴者数10億人以上（多言語） 1,000近いメディアで放送	ジャーナリスト 40名以上 累計視聴者数10億人以上（多言語）

AI for Good Global Summit 2019 主なプログラム構成

5/28	5/29	5/30	5/31		
<p>オープニング ITU事務総局長・WMO事務局長 WIPO理事長・XPRIZE財団取締役 ACMのCEO・EOSG</p>	<p>Breakthrough Sessions 以下5つに分かれて開催 ()は主催・担当企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ① AI and Health (WHO) ② AI and Education (iridescent(米国非営利団体)) ③ AI and Human Dignity and Equality (UNESCO, UNISEF等) ④ Scaling AI (Ocean Protocol(仮想通貨プロジェクト)等) ⑤ AI for Space (XPRIZE) 	<p>AIの今後の課題の検討 SDGs・農業・ロボット・科学</p> <p>パートナーワークショップ 発展途上国における ヘルスケアシステム等</p>	<p>テーマ別セッション・パートナーワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① Smart and Safe mobility ② AI Storytelling ③ AI Guidelines ④ AI Commons ⑤ Planet ⑥ AI for Good in cities ⑦ 5G ⑧ 公共事例 ⑨ 若者のリテラシー 		
<p>基調講演 マイクロソフト執行副社長 シーメンス取締役会議長</p>		<p>Stotyellers Black in AIの共同創設者 等</p>		<p>Breakthrough Sessionsの結果報告</p>	
<p>Breakthrough teamsの紹介</p>		<p>クロージング講演 レイ・カーツワイル氏 (著作「The Singularity Is Near」で有名)</p>			<p>クロージング ITU事務総局長</p>
<p>デモ</p>					

オープニング講演

- ITU事務総局長

AIは我々の生活を変える。**安全で信頼された包括的なAIの道は、政府、産業界、学界、市民社会の間の前例のない共同作業を必要**とする。世界中のパートナーとの協力により、AI技術の信頼性、安全性、包括的な開発、その恩恵への公平なアクセスを確保

- 世界気象機関（WMO）事務総長

WMOは毎日ビッグデータを扱い、世界中で収集された膨大な量のデータに基づいて24時間365日の運用予測システムを運用している。**AIサミットでプロジェクトを生み出し、全ての人々が安全にアクセスできるようにすることが目標**

- 世界知的所有権機関（WIPO）取締役

1950年代以来34万件のAI特許出願。AIは経済と社会を変革している最も重要な技術の一つであると同時に、AIにはそれを取り巻く緊急の経済的、社会的、倫理的な問題がある。**問題を解決するために、何よりも対話が必要**

- XPRIZE財団CEO

AIとデータは、人類が直面している最大の課題を解決する基本的なツール。**AI革命の予期せぬ結果について議論し、実現可能性の高いソリューションのために取るべき行動を提案**

- ACMのCEO

AI技術者と、政府・産業界のリーダー等を結集させることで、差し迫った世界の課題にAIを適用する新しい方法が提案され実現される。こういったコンピューティング技術が明日問題解決するのに役立ち、職業を発展させ、良い影響を与えることを望む

- EOSG（Executive Office of the Secretary-General）事務次長

AIサミットは**SDGs達成に向けてAI等のテクノロジーを発展させるイベント**であり、考えうるリスクを共に解決し、標準に発展させる重要な会合

ITU電気通信標準化局長「AIのトップユースケース」

- 風力発電で生成されるエネルギー量を予測するために深層学習が使用されており、スマートグリッドへのエネルギー供給を効率化する
- 健康・医療分野にAIを活用するためにFG-AI4Hを発足させた。AIベースの健康診断ソリューションの精度をスコア化できるベンチマークシステムを作成（14のユースケース）
 - ✓ 急速に進行する皮膚がんを早期発見
 - ✓ 放射線画像を3Dで分析、従来のスライス画像より精度向上
- 機械学習は、ネットワーク管理とオーケストレーションの自動化に機械学習は期待されており、5GやIoTネットワークの実現には必要不可欠であるため、将来のネットワークの機械学習に関する技術レポートと仕様を作成するFG-ML5Gを開始
- 通信事業者は、世界で最も貴重なデータを保有し、最も信頼され規制されている。そのため自社内でさえ、顧客データを共有することはない。最近、一部の事業者では、AIを使って、健康・天気・ソーシャルメディアと組み合わせたデータ分析を通じて、トレンドや病気の流行を予測できるようになった。
- AIを実装するためには、ユーザ中心の設計アプローチと、適切なデータセットが必要不可欠。

初日のマーケティング・セールトップの講演、広いブースの設置、
2日目以降のプレゼンテーションなど存在感あり。

- 事例紹介「FarmBeats」
AI、IoT、クラウドをベースに、ドローンやセンサーで収集したデータを
駆使した農業分野の改善、総コストの削減を可能にするプロジェクト
- 3つのプログラムについて紹介、AIを活用して以下の社会課題に取り組むため
1億1,500万ドルを拠出
 - ①AI for Earth（環境対策）
 - ②AI for Accessibility（世界中の障がい者への支援）
 - ③AI for Humanitarian Action（AIビジネススクールを通じたリーダー向育成）
- プライバシーを保護する顔認識などの方針と規制を積極的に主張

基調講演等

- シーメンス取締役会議長

産業用AIの前提条件を、①Focus：産業用AIへの投資に注力 ②Infrastructure: 5Gの実装等必要な基盤の構築 ③Data：AIデータの可用性を確保（データ独占を回避）の3つとし、**産業用AIの原則**を、①Trust: プライバシー、セキュリティ、説明性を考慮した設計 ②Accountability: 人的責任の割り当て ③Enhancement: 人的能力の向上

- AI技術者・Black in AIの共同創設者

AIにおける“**Black skin**”の**認識率の低さ**について実験データを用いて説明し、社会的バイアスを取り除くために、必要なデータの収集やその収集方法、評価モデルの必要性を強調

- アメリカの発明家・実業家 Ray Kurzweil

技術的進歩の予測を的中させる、著書「The Singularity Is Near」で知られる同氏が遠隔から初日のクロージング講演オリジナルの統計データを示し、「AIの進歩によって将来は改善される。科学技術の進歩は直線的ではなく指数関数的に進歩する。**人間はクラウドに接続することで拡大した脳を持ち、知性は100倍になるであろう。**」と予測



AIと健康福祉

- 昨年のAIサミットの成果として、Focus Group on AI for Health(以下、**FG-AI4H**)を発足（11のトピックグループ）
- 乳がん、アルツハイマー病、目・皮膚病などの健康問題に対処するため、AIを活用した健康手法の評価と国際標準化に向けたフレームワークの開発を目指す
- FG-AI4Hは、各トピックグループは5つのステップで実施
 - ①コミュニティ:健康問題を中心としたコミュニティの形成と拡大
 - ②提案:特定のAI4H提案の勧誘
 - ③評価:参照データ・セットおよび測定基準を含む評価基準の設定
 - ④レポート:評価と結果に関するレポートの発行
 - ⑤普及:AIを活用したヘルスソリューションの実用化
- AIソリューションの品質管理で網羅すべきポイント
 - ①パフォーマンス測定
 - ②堅牢性
 - ③不確定性
 - ④説明可能性
 - ⑤一般可能性

AIと健康福祉—主な講演①

- ITU電気通信標準化局長
FG-AI4Hの重要なミッションは**保健データのアクセスと適切な利用におけるベストプラクティスを確立**すること
- WHOチーフサイエンティスト
ヘルスケア関連のアプリが多く世の中に出回っている一方で、リスクもあり品質保証に対処するために、**ガバナンス・フレームワーク**が必要と強調
- WHOのCIO は健康管理におけるデータの流れを、ドイツ連邦保健省医薬品研究所責任者は、メディカルアプリや医療機器のサイバーセキュリティ対策のガイドラインを公表し、**価値創造とデータ保護のバランスが重要**
- FG-AI4Hの副議長は、医療分野保守的でAIの活用が遅れていると説明、ベルリン大学病院の教授は、がん細胞の発見にAIを活用する事例を紹介しながらベンチマークの定義を示し、**検証とベンチマークの必要性**を強調
- マイクロソフトイスラエルヘルスケアは、AIを活用したヘルスケアbotや診断チャットの事例を、[YourMD](#)は、**適切なプライマリ・ケアを提供する健康管理ソリューション**を紹介し、低コストで診断をサポートするAIの可能性を示した

AIと健康福祉—主な講演②

- [Ada Health](#)（主な拠点ベルリン・ロンドン）常務取締役
世界の4億人がプライマリ・ケアサービスにアクセス出来ておらず、中国では診察時間が2分という現状を示し、それらを解決するための開発した**130カ国、5言語に対応した健康管理アプリ**を紹介、600万人利用
- BaiduAIヘルスケア部門シニアディレクター
ハイスpek的な病院に患者が偏る不均衡に直面し、医師を支援する**臨床意思決定支援システム（DISS）**を開発し95%の精度を実現
- [3Derm Systems](#)
AIを活用することで皮膚科に匹敵するレベルで皮膚がんを分類することができる**独自のスキニングシステム**を示し、異なる民族をカバーするには、データセットの多様性が欠かせない
- 診療行為や患者データを収集したレポートを公開する[FDA](#)
ヘルスケア分野のデータ活用の重要性を提示し、**データの品質を担保するために、開発の初期段階から組み込み、規制当局とのコミュニケーションが重要**
- マイクロソフト
医療現場で医師をサポートするAI搭載システム「[Project EmpowerMD](#)」を紹介し、システムを改善するために臨床文書の自動化を促進していると述べ、関係部門との連携が必須

AIと健康福祉—まとめ

- AIとデータは切り離せないもの、特に**高品質データの重要性**は議論全体を通じて共通の認識
- AIとデータは医療現場の人材不足を補完し、クラウドベースの健康管理やオンライン相談・診断などの提供に役立つ一方で、患者の安全を担保するためには、複数機関をまたがって**大量のデータを連携させ、それらを適切に管理運営するベンチマークの必要性**が改めて浮き彫りとなった。
- 企業事例の中で診断支援アプリが多数出ていたが、FG-AI4Hは、AIを活用したヘルスケア系のアプリの提供に中心的な役割を果たし、健康問題や治療のための**AIアルゴリズムやパフォーマンスのベンチマーク等フレームワークの標準化に取り組む**と改めて発表された。

Breakthrough Sessionその他の概要

AI and Education	AI and Human Dignity and Equality	Scaling AI	AI for Space
<ul style="list-style-type: none">サミットの成果で2つのプログラムを発表①世界最大の家族向けAI教育プログラム 8,000人の親子と150の教育を対象②世界最大のAIメンタリングプログラム 教育の専門家1,000名がAIを学びやすくする実践プログラム	<ul style="list-style-type: none">官民が協力して、AIの開発、教育、労働力への組み込みを保障する戦略を策定することが前提AIと子供の権利を守る政策ガイダンスの策定を宣言関連サイト「Technoladies」をオープン予定	<ul style="list-style-type: none">オープンプラットフォームと新しいテクノロジーを活用して、データやモデルを共有マルチ・ステークホルダーで様々なスキルを有する人材を連携貧困や気候変動に対処するため、5年間で、100各国と連携し50のプロジェクトを発足させる。	<ul style="list-style-type: none">膨大な宇宙データは気象現象の監視や気候変動の対処に役立つ宇宙分野で有益なAIを実現するためのデータ要件に関する共通の合意を見つけるAIと宇宙のガバナンスに関する幅広い原則の合意に向けての第一歩を踏み出す

AIの課題検討とSDGs

- AI Singapore※1専務取締役

AIエコシステムを構築するためのチャレンジプログラムとして、AIを活用した高脂血症・高血圧症・高血糖患者の疾患の進行や合併症の発生を5年間で20%抑制

- ブータン情報通信・メティア庁のチーフ

「**AIとHappiness**」と称して、AIは第四次産業革命の“電気”になりつつあり、健康・教育・環境等社会福祉に不可欠な基本サービスの提供方法を変えると、**国民総幸福量（GNH）の進展にAIの活用を宣言**

- Quid社EMEA※2ディレクター

ブルームバーグやマイクロソフト等で活用されている**独自のテキスト処理アルゴリズムを使ったマーケット・市場分析アプリ**。国連と連携しSDGs達成に向けた各目標の課題と現状を分析・視覚化

- PwC Global AI Lead

企業のAI支援と、PwCグループ内でのAI活用を推進するため世界中からメンバーを集めた組織「**AI Lab**」で実現する社会のイメージ

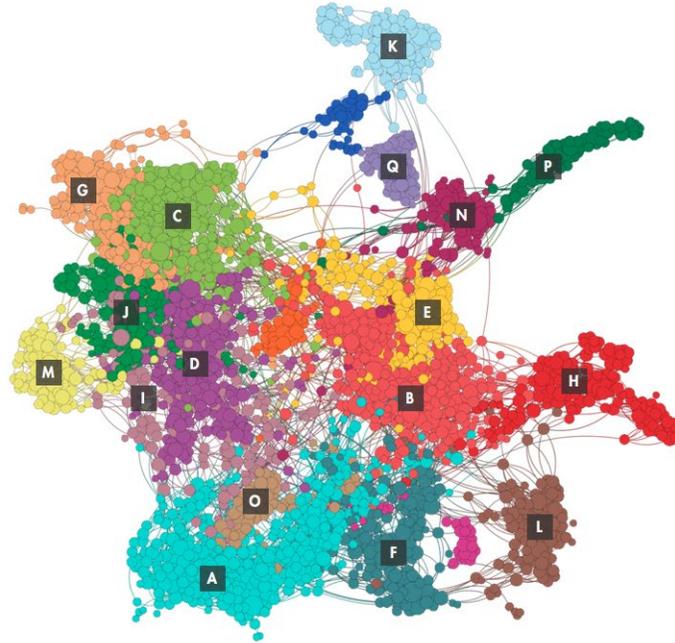
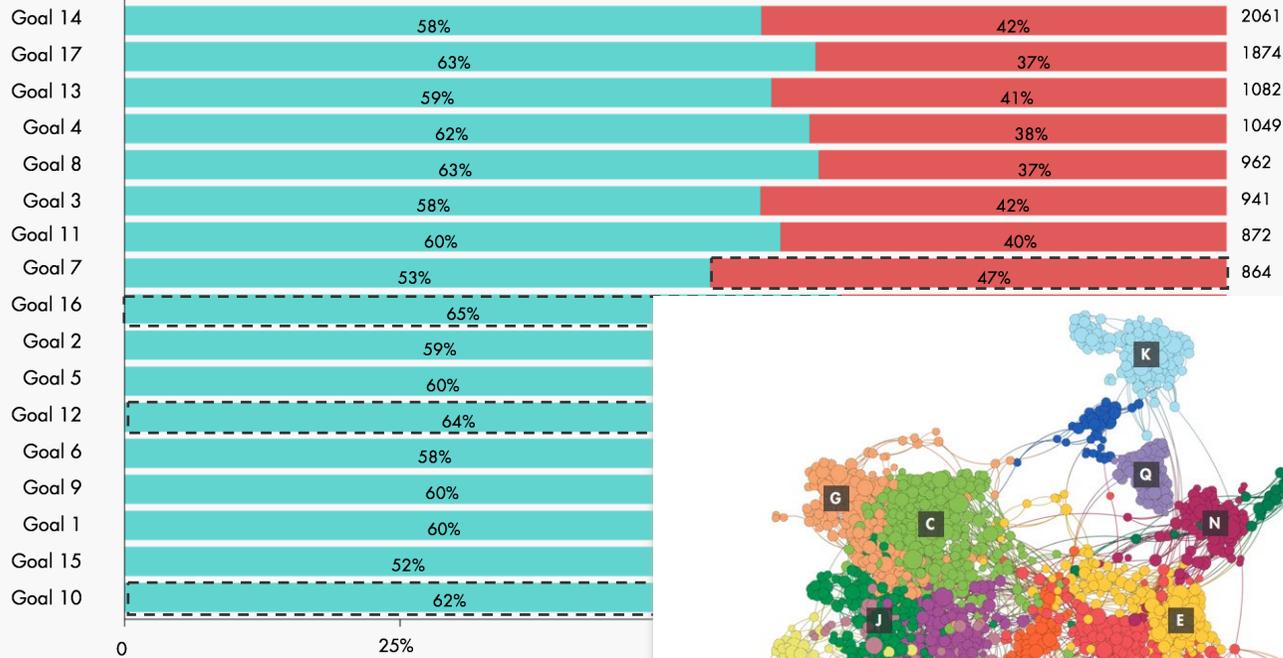
※1 シンガポール国立研究財団の支援で、シンガポール国立大学が主催する国家プログラム

※2 Europe, the Middle East and Africaの略でヨーロッパ、中東及びアフリカをさす

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS BY PARTNER TYPES

Private sector actors were focused on goals 10, 12 and 16; while public sectors actors were more concerned with goals 7 and 15.

Overall, private sector entities made up over 50% of partnership participants for every Sustainable Development Goal



- A GENDER EQUALITY IN THE WORKPLACE (13%)
- B ART & POPULAR CULTURE (10%)
- C GENDER EQUALITY IN DEVELOPMENT (8.4%)
- D REGIONAL ATTITUDES: EU (7.8%)
- E LAWS, LEGISLATIONS (5.9%)
- F EDUCATION, STEM EDUCATION (5.8%)
- G CLIMATE CHANGE, SOCIAL INCLUSION (8.4%)
- H FILMS, HOLLYWOOD (5.2%)
- I PAY EQUITY, PAID PARENTAL LEAVE (5.1%)
- J BEIJING PLATFORM FOR ACTION (5.0%)
- K SPORTS, ATHLETES (4.2%)
- L HEFORSHE CAMPAIGN (4.1%)
- M ACTIVITIES IN VIETNAM (3.2%)
- N ACTIVITIES IN MIDDLE EAST (3.0%)
- O WORKPLACE GENDER EQUALITY: AWARDS & CERTIFICATION (2.8%)
- P GENDER EQUALITY BILL IN NIGERIA(2.5%)
- Q RING THE BELL FOR GENDER EQUALITY (SUSTAINABLE STOCK EXCHANGE) (2.2%)

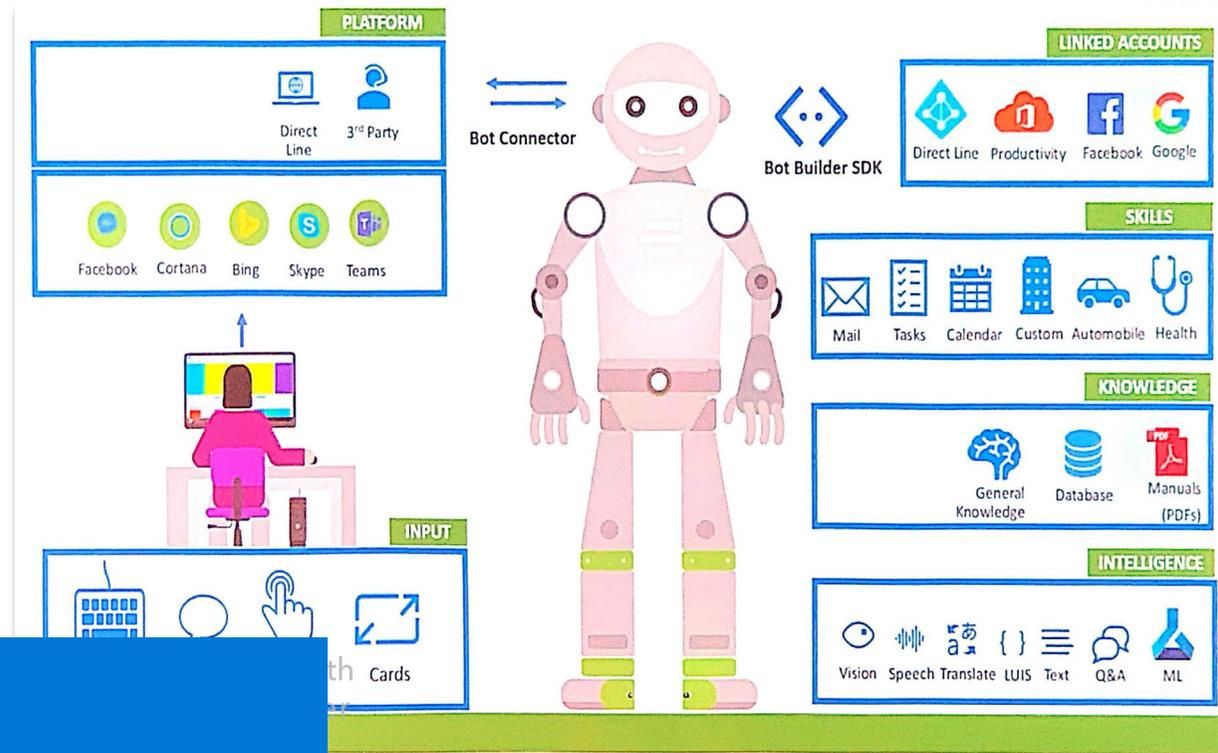
企業向けAI&機械学習のユースケース

- ACM実行委員会のメンバーでもあるクラークソン大学准教授が、**AIにおけるバイアスを防ぐプロセスデータ**（①AI実装 ②練習用のサンプル ③入力サンプル）を提案
- CW(Cambridge Wireless)のCCOとコンサルタントから**5Gの可能性**
- マイクロソフトSolution Architectから**AIプラットフォームの概要**
目標は全ての会話の背後にAIを活用すること
一番の強みは開発者が共通のフレーム複数のプラットフォームに展開できること
- LiveTiles社のチャットボット
AIとカスタマイズされたチャットボット機能を利用したセルフサービスのプラットフォーム展開
Woebot カウンセリング
Replica 自分に似たチャットボットを作成できる

Cambridge Wirelessの5G

Use Case	<ul style="list-style-type: none">• AI・機械学習活用による駐車場の利用状況の監視• 変動する天候に対応した照明の実現• 農業におけるコスト削減、効率性の向上（スマートな灌漑ソリューション・ロボット収穫・スマートガスメーター）• 水の使用量を分析• ヘルスケア（在宅支援・診断支援・精密外科用ロボ・予防医療・ストレス測定）• VR活用（体と心のリハビリ・REHAB（精神科リハビリテーション行動評価尺度）ソリューション）• インテリジェントシティ（リヴァプール実証）・スマートシティ
Cost & Considerations	<ul style="list-style-type: none">• ブロードバンドデータ作成コストの目標は4Gの10%
Value	<ul style="list-style-type: none">• コモディティ化（コストを大幅に削減し、利用可能性を高める）• 高性能通信サービス• あらゆるB2C・B3B・B2B2Cアプリケーションの利用を可能にする• 分散クラウドの多機能化でデバイスや製品の簡素化とコスト削減• ビジネスの機敏性と柔軟性• 5G & IoTで広範囲で長期的な監視が可能
Function	<ul style="list-style-type: none">• リアルタイム制御• 膨大な数のデバイスをつなぐセンサネットワーク• 超低コストのブロードバンド接続• 大量のデータをクラウドとAIで分析• ネットワークを複雑にすることでデバイスのコストを削減
Technology	<ul style="list-style-type: none">• 無線・エッジコンピューティング・仮想化・API・AI・ネットワークスライシング・モバイルブロードバンド・IoT

Microsoft AIプラットフォーム全体像と強み



Adaptive Cards

Open framework, multiple platforms



UWP / WPF / .NET



iOS



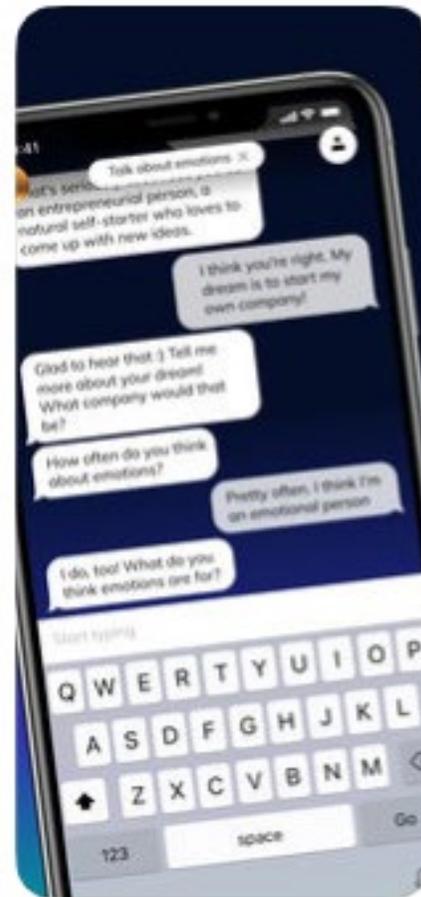
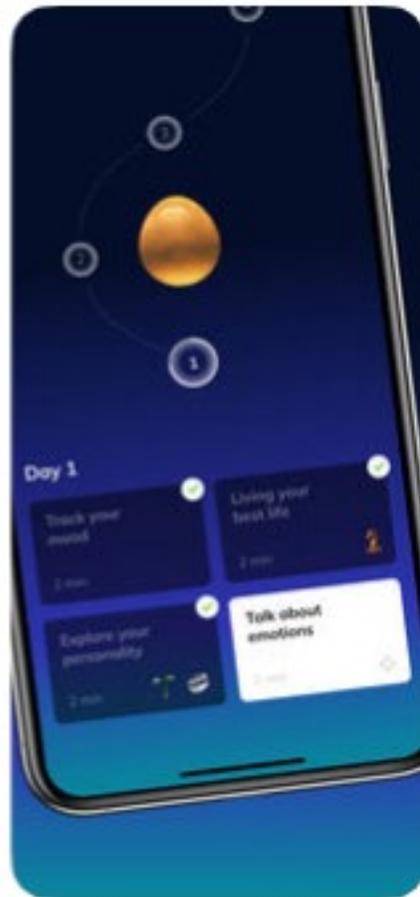
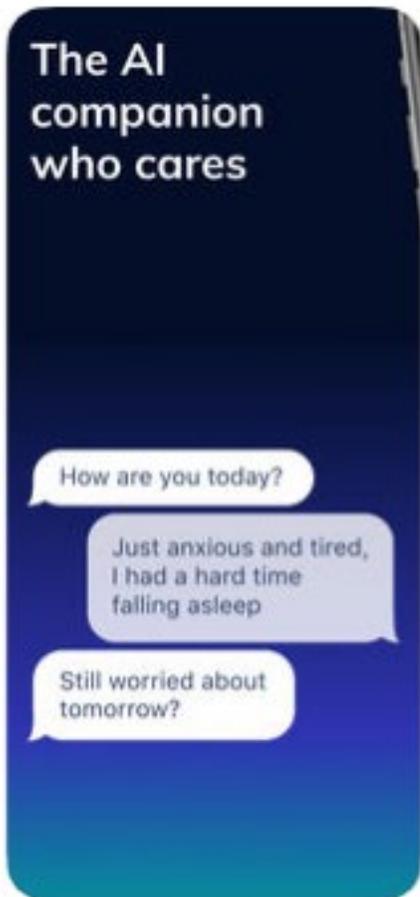
Android



HTML

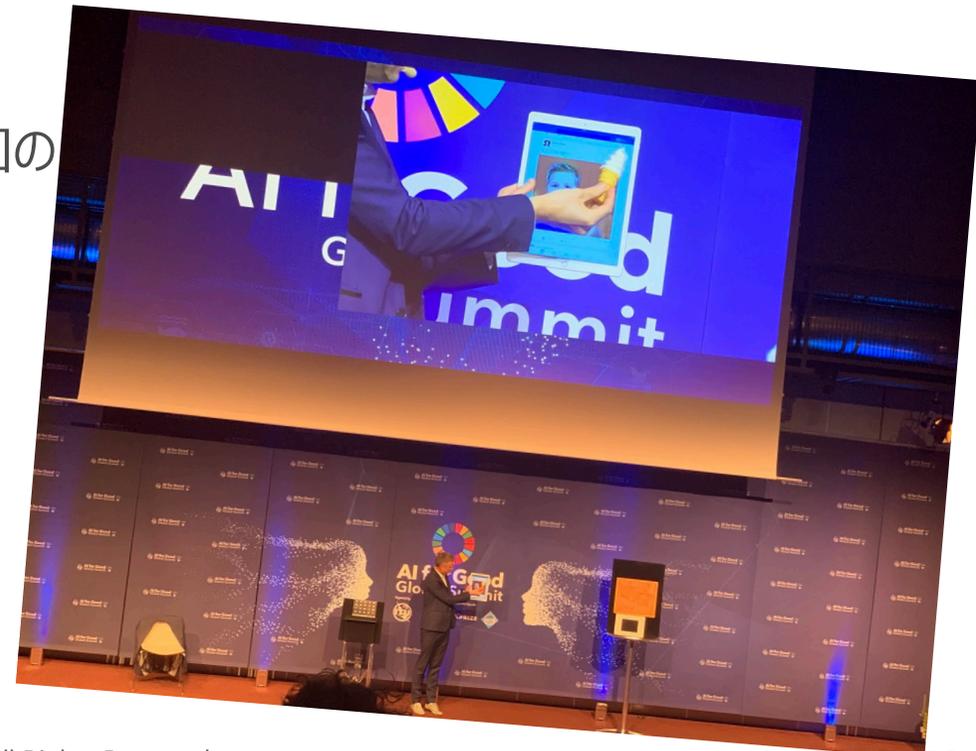
Replica

- 自由にチャットしながら、メンタルトレーニングを実施（ポジティブシンキング、ストレス管理等）
- パーソナリティを探り、一緒に成長していく



クロージング

- **The other 50%**（世界の半分の人々がICTの恩恵を被っていない、つながっていない）
ITUとXPRIIZE財団がコラボして、これからの数十年で解消すると宣言
- ITU事務総局長 Houlin Zhao氏
AIサミットは他にはないイベント
世界中の複数の分野から利害関係者を招集して、AIがどのように適用され、幅広い問題をどのようにサポートできるか真剣に検討する場、
AIとデータは共有する必要がある、コミュニティを通じたインフラの構築が重要。
AI Commonsというコミュニティは、過去三回のサミットとともに発展してきた。
SDGsと整合することはAIが人類の健康に積極的に影響を及ぼし、全ての学生に質の高い教育を提供することを意味する。
- iPadマジシャン
Simon Pierro氏のライブパフォーマンス



AI Commons

- AIイノベーター、起業家、学术界、NGO等によってサポートされる非営利組織
- AIを使って実際に社会課題を解決するためのソリューションを開発できるようにするためのコラボレーションフレームワーク
- AI for Good Global SummitはAIコモンズを支援
- AI開発者とAIを使う側のスキルのギャップを埋めるために、安全で倫理的なアプローチが必要であり、AIコモンズはコラボレーションネットワークを提供
- AIソリューションの展開に役立つ、ガバナンス・ポリシーを作成
- 組織は3つの方向性「Connect」「Build」「Scale」で、プロジェクトが進む

AIコモンズの取り組み

Connectivity	持続可能なソリューションの実現に向けて、AIイノベータと問題を持つユーザをつなぐ。関係者同士の知識を信頼できる安全な方法で共有するコミュニティを目指す。
AI Repository	トレーニング済みのML / AIモデルの共通リポジトリで、実践コミュニティのリソースとして機能
AI Community Hubs	AIで課題を解決するためには、問題の所有者を問題解決者に関連付けることが重要であり、アクティブなAIのコミュニティハブを目指す。
Build	オープンな環境で共有リソースが利用できる環境を整備。アクセスルールの定義や、そのルールを管理するガバナンスを整備
Storytelling Challenges	歴史上著名な女性の名前を提供された場合に、キャラクターのプロフィールを生成できるアルゴリズムを開発するチャレンジ
Global Data Commons	SDGsの達成を支援するために、グローバルベースでデータのルールベースやアクセスのメカニズムを提供、高度な分析と、AIにおける革命の活用を支援することを目的とする
AI Collaboration Sandbox	AI/MLアルゴリズム、トレーニング・データ・セット、クラウドおよびコンピューティング・リソースが組み込まれており、誰でも実環境におけるソリューションを評価できる環境を整備
Scale	投資グループと政府両方が、資金調達も含めたAIソリューションのスケールリングや標準化フレームワークの構築を支援
ImpactNet	AI for Impactベンチマークデータベースで、モデルデータセットとモデルAIソリューションを作成。データセットにより、より多くの研究者が新しい分野でモデルを使用できるようになる。

AIコモンズ支援団体

支援団体 (21社) サミットスポンサー

ロゴをクリックすると、各企業等のホームページにリンク。

財団
非営利団体



(財団)
＜アメリカ＞



(財団)
＜スイス＞

企業



Ocean
(仮想通貨)
＜シンガポール＞



Element AI
(人工知能会社)
＜カナダ＞



(機械学習会社)
＜アメリカ＞



Mira
(機械学習研究所)
＜カナダ＞



Alcrowd
(AIプラットフォーム)
＜スイス＞



(コンサルティング)
＜イギリス＞

インキュベーション
施設



Mira
(イノベーションハブ)
＜タンザニア＞



District 3
(イノベーションハブ)
＜カナダ＞



(イノベーションハブ)
＜スイス＞



Camera Culture
(MIT Lab: 見えないものを見る化)
＜アメリカ＞



(ストーリー手リング)
＜アメリカ＞

研究機関



(シンクタンク)
＜アメリカ＞



P.A.R.T.
PARTNERSHIP TO ADVANCE
RESPONSIBLE TECHNOLOGY



(シンクタンク)
＜アメリカ＞



経営大学院
＜フランス＞



Center for
Human-Compatible
Artificial
Intelligence

(AI研究所)
＜アメリカ＞



教皇庁アカデミア
＜イタリア＞



(AI設計)
＜フランス・アメリカ＞

デモーFUSION

- 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科のプロジェクト
- 共同作業を行うための遠隔コラボレーションシステム
- ロボットアームを介した共同作業を可能にする
- 動作教示や運動サポートにも活用可能



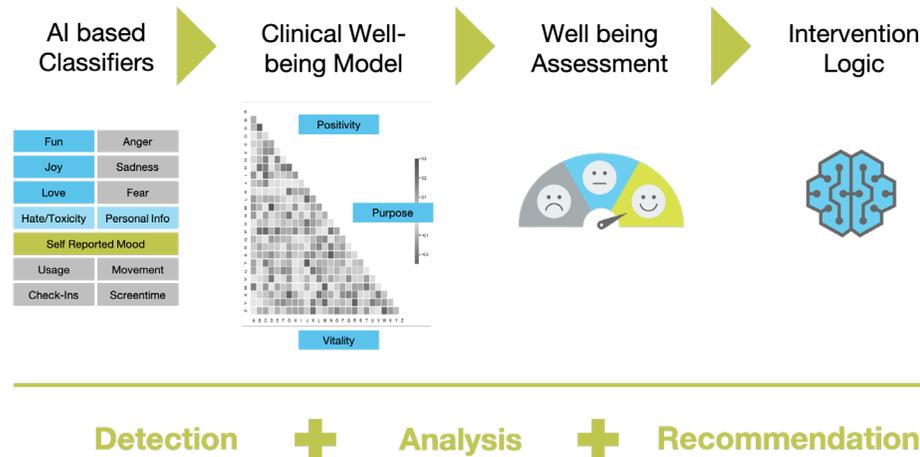
デモーPRIVATELY社

- 子供のデジタルライフをより安全に管理するためのアプリ

- BBC「Own It」に提供
9~12歳の子供向けITリテラシー教育アプリ

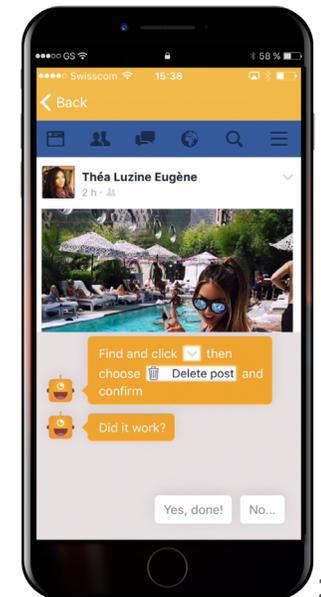
- 事例

- メッセージを送る前に、使っている単語が他のユーザにどのように認識されるのか通知
- 子供の気分を時間の経過とともに追跡し、状況を改善するガイダンスを送付
- 電話番号をSNS上で共有しようとする、何故そうするのか確認等を行う



Copyright © 2019 TTC. All Rights Reserved

Real Time Guidance



デモーROBORACE

- Nvidiaとミシュランが共同で開発している世界初の無人電動レーシングカー
- 運転席も備わっており、ドライバーが乗って操縦することも可能
- 車載AIコンピュータによって、レースに関わるメンバー全員が、リアルタイムに取得できるデータやレース中の振動や動きを把握できる



Sponsor & Partner

Grade	企業	団体
Platinum		
Gold	 コンサル	 米国コンピュータ学会  米国財団  AUTONOMOUS DRIVERS ALLIANCE
Silver	 コンサル	 米国虐待0プロジェクト
Bronze	 米国ソフトウェア	
Supporter	 コンサル  カタのAI企業	 スイスの財団
Content	 米国ストーリーテリング  イギリス公共政策会社  スイスバージョン連携  スイスシンクタンク	  モントリオール市  マルタとスイスの財団  ジュネーブ大学  スイス連邦工科大学ローザンヌ校  スイスデータ収集分析  米国非営利団体  スイス研究機関  フェスティバル財団  オープンプラットフォーム DEEP※

※ACAPS, IDMA, IFRC, JIPS, UNHCR, UNICEF, OCHA, OHCHR, Okular-Analyticsが統括するプロジェクト

4回目の来年は2020年5月4～8日開催決定

- AIサミット参加のメリット
 - ① AIイノベーター、AIを活用したい企業・自治体の両方と接点を持つ
 - ② **参加型**で積極的に課題を共有できる
 - ③ 周囲の賛同を得られれば**プロジェクトを発足**することができる
 - ④ **スポンサー**からの様々な援助が期待できる
- 唯一のプラチナスポンサーのマイクロソフトが最も目立っていた
- 講演企業等の取り組みが全て先進的であるわけではない
- 次回はグローバル市場を狙う日本企業や先進事例を有する日本の自治体がAIサミットで存在感を発揮できるように、TTCの専門委員会や研究会活動等を通じてバックアップしていきたい。

AI for Good Global Summitトップページ

<https://aiforgood.itu.int/>

AI for Good Global Summit過去開催のレポート

<https://aiforgood.itu.int/reports/>

AI for Good Global Summit2019 Insights

<https://itu.foleon.com/itu/aiforgood2019/home/>

AI Commons

<https://ai-commons.org/>

参考) AIと教育：プロジェクト1

プロジェクト1:世界最大の家族向けAI教育プログラム

テーマ:

資金不足のコミュニティがAIイノベーターとしての効率性を高めるために、どのような頻度、継続期間の広告支援が役立つか?

コラボレータ:

グーグル、McGovern、Foundation、マルタ大学、マルタ教育学部
AIDA(スペイン),Power to Code(クウェート (オーストリア)),School of Computer Science,カーネギーメロン大学

成果:

8000人の子供と保護者、15万時間のトレーニングを含む150の教育

コミットされた資金:

825,000ドル

必要な資金:

50万ドル

参考) AIと教育：プロジェクト2

プロジェクト2:世界最大のAIメンタリングプログラム

テーマ:

業界の専門家がAIをもっと学びやすくするための経験的で実践的なAIメンタリングを実行

コラボレータ:

NVIDIA、TU Graz、オーストリア、AIカリキュラム運営委員会

成果:

業界の1000名の指導者、40名のAI専門家、1万時間のメンタリングによりメンターを育成

コミット済資金:325,000ドル